

第1章

北海道ができるまで



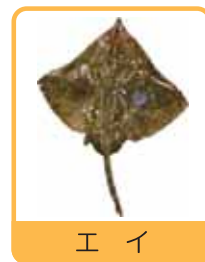
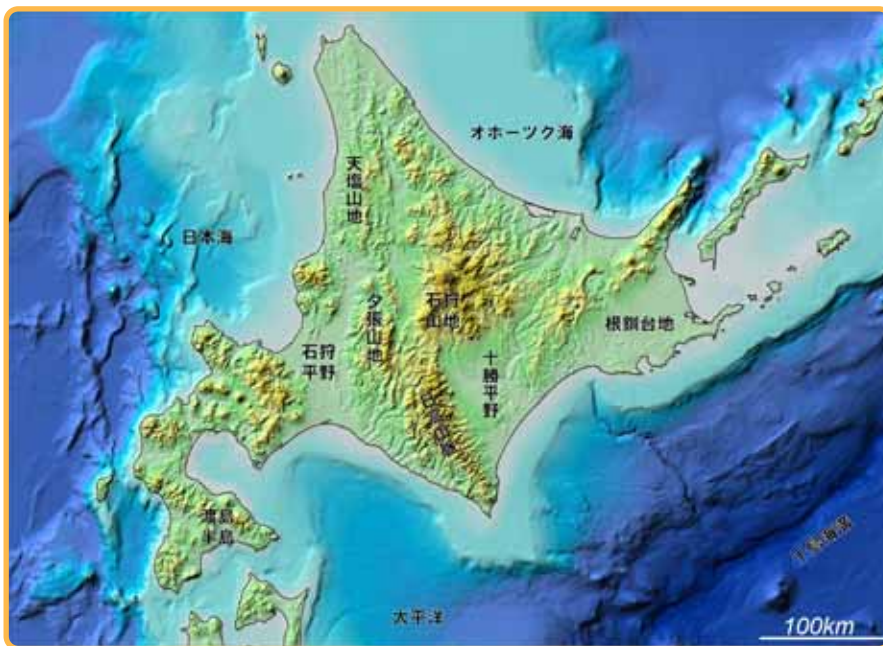
1.1. 北海道の誕生

北海道のかたちを見る

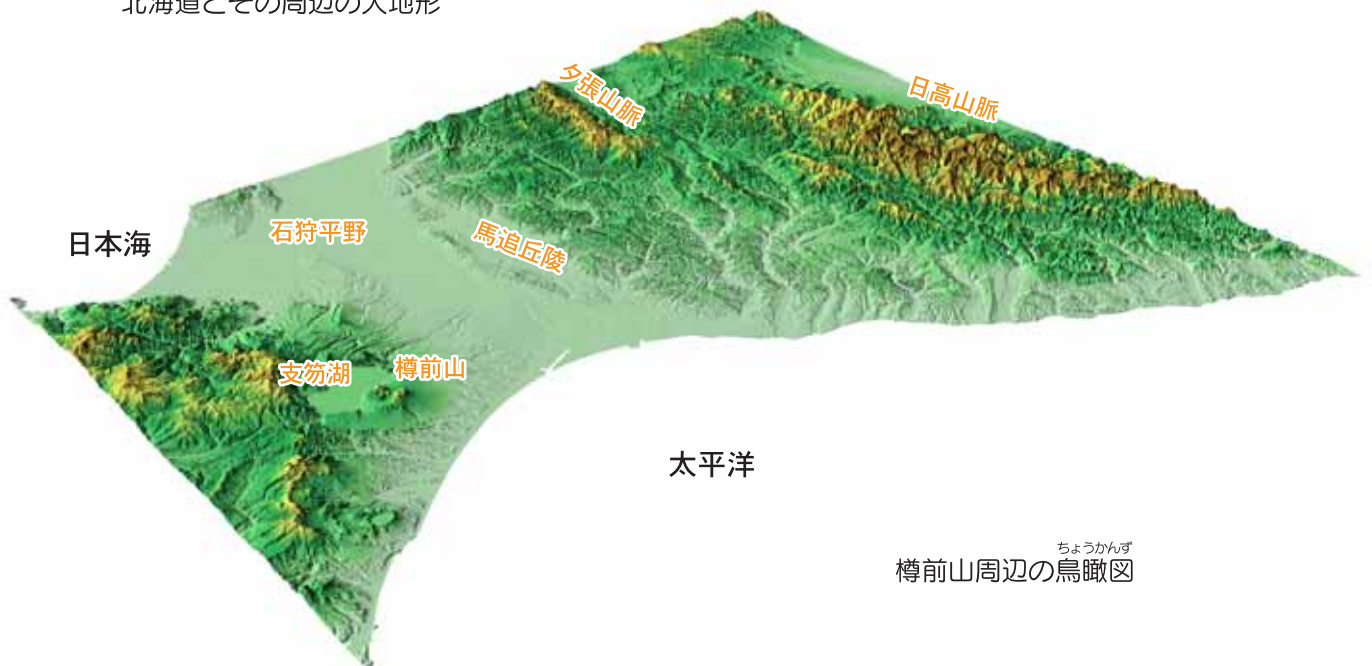
北海道は長くのびる本州とは違い、東西南北が突き出た「エイ」のような形をしており、太平洋・日本海・オホーツク海に囲まれています。

北海道の中心部は日高山脈や夕張山地などの標高の高い山岳地帯です。海岸線付近には平地が広がっており、石狩から苫小牧へかけては、石狩平野が広がっています。

このような山脈や平野はどのようにでき、北海道の大地はどのように誕生したのでしょうか。



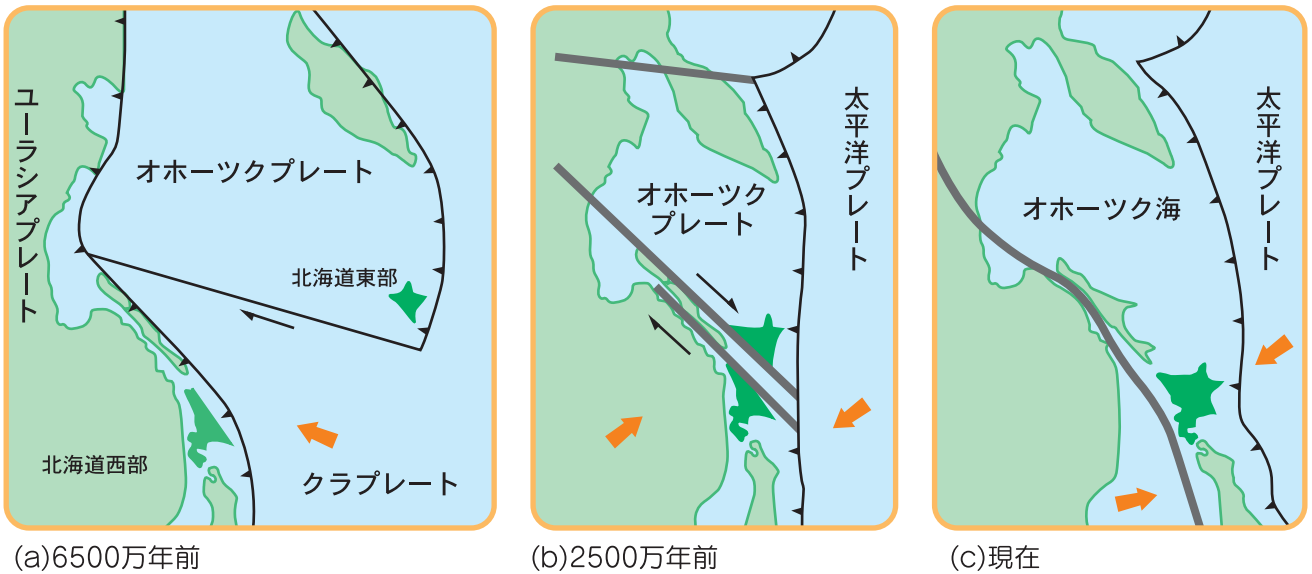
北海道とその周辺の大地形



樽前山周辺の鳥瞰図

2つのプレートが衝突！ 日高山脈ができた

今から6500万年前、広く深い海があり、北海道の東部と西部は遠く離れた別の場所にありました。その後、プレート運動で、北海道の東部と西部は近づき始め、ついに2500万年前に衝突しました。プレートの衝突で、高い山々が作られ、それが今日の日高山脈です。このようにして、現在の北海道の形がつけられました。



内陸まで海が入り込んでいた 海岸線の変化

今から数10万年前、小樽から苦小牧にかけて海がありました。この当時、石狩川は太平洋に流れていましたが、約4万年前に起こった巨大噴火で発生した火砕流により海は埋め立てられ、石狩川は日本海に流路を変えました。

約6000年前には世界的に温暖化となり、海面が上昇しました。このため、勇払平野には海が入り込み(縄文海進)ましたが、その後は海面が下がって陸地になりました。



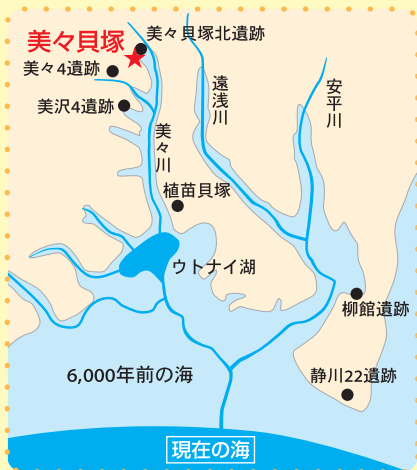


じょうもんかいしん かいづか とまごまい
縄文海進と貝塚, 苫小牧の市街地

樽前山周辺では旧石器時代から人間が生活をしていました。縄文時代前期はやや寒冷な気候でしたが、その後の温暖化により、氷河の融けた氷が海に流れ込み海水面が徐々に高くなりました。これを縄文海進と呼びます。

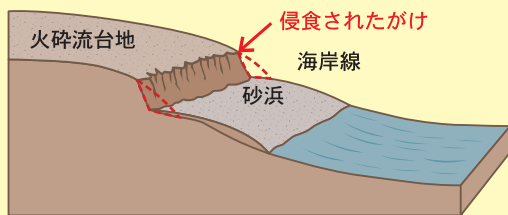
びびかいづか
●美々貝塚

約6000年前頃の縄文海進により、現在の美々川に沿ってJR千歳線美々駅のあたりまで海が入り込んでいました。当時、美々で暮らしていた人たちは、近くの入り江でシジミを採集し、調理した後の貝殻を積み上げた貝塚を残しました。貝塚の分布を調べると、当時の海岸線を推定することができます。現在まで多くの貝塚が発見されていますが、美々貝塚はその中でも最も内陸にある貝塚です。



●砂浜だった苫小牧市街地

苫小牧市市街地背後のがけは、縄文海進当時、波により侵食されてできたもので、市街地は砂浜でした。



イメージ図



苫小牧市街地の写真